幼児礼拝3月①

真の父母様生涯路程⑤「御聖婚、そして真の父母に」

きょうのお話しは、真の父母様のご聖婚のお話しです。ご聖婚とは、結婚のことです。まことのお父様と真のお母様がどのようにご結婚をされたのかについてのお話しです。

ある日、真のお母様に、お母さんが言いました。

「不思議な夢を見たんだよ！」

「どんな夢ですか？」

真のお母様は、尋ねました

すると、お母さんは

「白い服を着た女の人たちがピンクの花を持って立っているのだけれど、そこを通っておまえが真のお父様のところに歩いて行くんだ」

真のお母様はお母さんの夢の話を聞きながら、この夢には、どのような意味があるのだろうと、深く考え込みました。

しばらくして、教会では、真のお父様の御聖婚の準備が始まりました。どのような人が真のお父様の結婚相手になるんだろうと、多くの教会の人が話し合っていました。

「きっと頭が良くて立派な女性じゃないかな？」

「まことのお父様の歩みをささえるために、お金持ちの女性だと思う！」

など、さまざまなお話がありました。

そんな中、あるおばあさんが、夢を見ました。

「夢で、空から沢山の鶴が飛んできて、なんど手で追い払ってもまた飛んできました。

そして、ついには真のお父様をおおってしまったのです。おそらく神様は、名前に『鶴』の字がつく女の人をまことのお父様の結婚相手として望んでいらっしゃるのではないかと思います。」

その頃、真のお母様は日曜日には礼拝に参加し、み言も熱心に勉強され、そして毎日たくさん祈っていました。そんなある日のことでした。

真のお母様の夢に、真のお父様が現れたのです。そして、天から声が聞こえてきました。

「その日が近づいたので、準備をしなさい」

真のお母様は、その声を聞いた途端「真のお父様の花嫁になるのは自分だ」ということを悟りました。そして、「神様が願われるとおりに生きてまいります。」と切なる思いで、お祈りされました

そしてついに、真のお母様は真のお父様とお会いになりました。それは天の花嫁を決めるための出会いでした。真のお父様と真のお母様は長い時間、たくさんの話をされました。

真のお母様は、絵を描いて見せたり、「天の子供をたくさん産みます！」と率直に堂々と話されました

1960年4月11日 旧暦の3月16日午前10時、真のお父様と真のお母様の聖婚式が行われました。神様が愛される真のお父様と、真のお母様が結婚して、真の父母様となられる、とても大切な時間でした。白い礼服をお召しになった、真の父母様は本当に素敵で、美しいお姿でした。

聖婚式の後、真のお母様は、参加した人たちの前で、とても美しい歌を歌われました。

そして、「神様のみ旨がなされるその日まで皆さんと一つになり一緒に歩んでいきます。」

と、力強く約束をしたのです。そこに参加したみんなが、とても感動しました。

そして、真の父母様は両手をしっかりと握り合い、切なる思いでお祈りを捧げられました。

「神様、きょう神様が愛される独り子文鮮明と神様が愛される独り娘韓鶴子が、神様の祝福を受けて真の父母になりました。これからは、真の父母の名で真の家庭を作り、神様の願いを全て叶えて差し上げます」

このように真の父母様のご聖婚の日は、神様が一番喜ばれる日となったのです。真のお母様は、自分が何のために生き、何をしていかなければいけないのか、幼い時から理解していました皆さんも、一人一人が神様からの使命を与えられています。皆さんも、真のお母様のようにいつも神様に相談しながら、自分の使命に気づき、為に生きる人生を生きることが出来るよう、これからもがんばりましょう！